

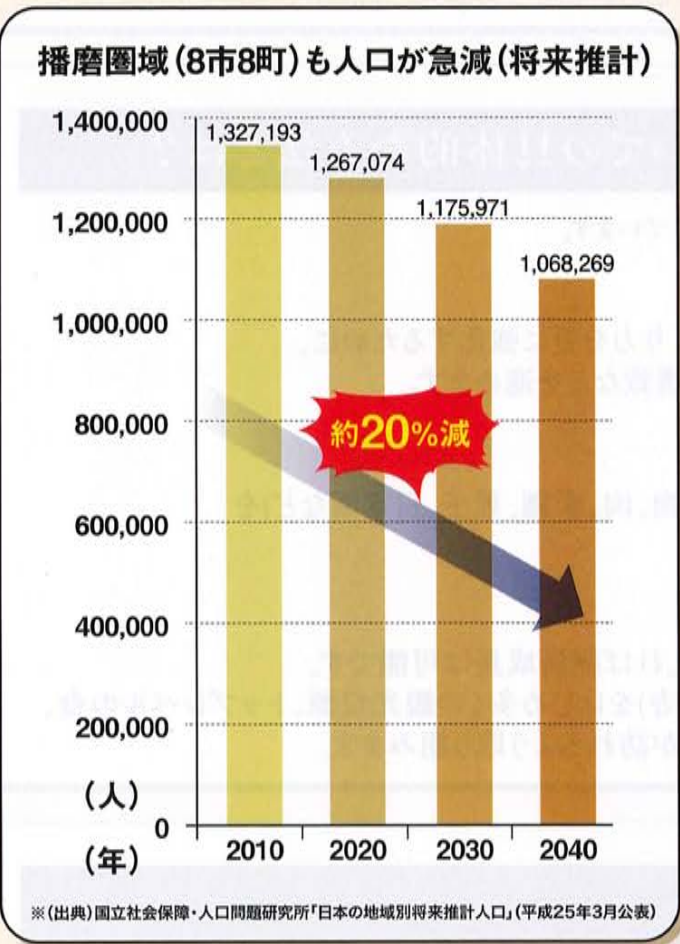
播磨圏域の市・町と姫路市が取り組む

連携中枢都市圏構想

「連携中枢都市圏構想」とは、人口減少社会の危機に直面する中で、播磨圏域の市・町が対等協力の立場で団結し、

- 1 播磨圏域の経済の活性化
- 2 圏域の魅力の向上
- 3 住民に安心・快適な圏域づくり

に取り組み、播磨圏域の「地方創生」を進める構想です。



人口減少社会でも**光り輝く播磨圏域**を目指して、**播磨が団結し、「連携中枢都市圏構想」を推進!**



「連携中枢都市圏構想」の目的は何？

次の**1**～**3**を通じて、雇用を創り、圏域の魅力を高め、大都市圏への人口流出をストップさせることです。

1 播磨圏域の経済の活性化

経済界、大学等、金融機関及び行政が一体となって、

①ものづくり力の強化、②地域ブランドの育成、③交流人口の増加 に取り組みます。

2 圏域の魅力の向上

世界から人材の集まる播磨圏域の魅力づくりに取り組みます。

3 住民に安心・快適な圏域づくり

広域防災、図書館の相互利用、鉄道路線の維持などに取り組みます。



拙者がお答えします

もりりい®

播磨圏域の経済の活性化についての具体的な方法とは？

「播磨圏域経済成長戦略」の中で、3つの戦略を打ち出しています。

① ものづくり力の強化

播磨圏域は全国有数のものづくり地域。ものづくり力を更に強化するために、産学官連携の共同研究支援、圏域全体で企業誘致などを進めます。

② 地域ブランドの育成

豊かな播磨の地域ブランド産品(播磨灘の海産物、肉、素麺、菓子、日本酒など)を「はりまブランド」として世界にPRします。

③ 交流人口の増加

人口が減少しても、交流人口(観光客など)が増えれば経済成長は可能です。幸い播磨圏域には、国宝(姫路城、鶴林寺、一乗寺)をはじめ多くの観光資源、トップレベルの食、歴史文化があります。全国・世界から多くの人々が訪れるよう取り組みます。

「連携協約」って何？

播磨圏域の市・町がそれぞれ姫路市(連携中枢都市)と、対等協力の立場で、「連携中枢都市圏構想」を進めるために結ぶ協約です。

「連携協約」を結ぶには、それぞれの市・町議会での議決が必要となります。

「連携協約」に基づく具体的な取り組みは「都市圏ビジョン」として、取りまとめられる予定です。

